

園と保護者を連携する学びのポートフォリオ開発に関する予備調査

Preliminary Survey for Developing a Portfolio that Implements the Family-Teacher Partnerships

佐藤 朝美 Tomomi SATO 愛知淑徳大学 Aichi Syukutoku University	松河秀哉 Hideya MATSUKAWA 東北大学 Tohoku University	堀田博史 Hiroshi HOTTA 園田学園女子大学 Sonoda Women's University	中村恵 Mugumi NAKAMURA 畿央大学 Kio University
松山由美子 Yumiko MATSUYAMA 四天王寺大学短期大学部 Shitennouji University Junior College		荒木 淳子 Junko ARAKI 産業能率大学 SANNO University	椿本 弥生 Mio TSUBAKIMOTO 東京大学 The University of Tokyo

〈あらまし〉本研究では、園と保護者が連携し、パートナーシップの関係性を構築するためのポートフォリオを開発することを念頭に、設計要件を導くための予備調査を行う。既に写真を共有するシステムを利用している教諭と保護者へインタビューを行い、その結果、パートナーシップの構築のために、保育者と保護者の互いの専門的知識を提供し合う方法が課題として挙げられた。

〈キーワード〉 eポートフォリオ・システム開発・幼稚園／保育園・保護者連携

1. はじめに

核家族化や地域社会のつながりの希薄化を背景とした家庭教育の困難な状況が指摘され、文部科学省では、「家庭教育支援チーム」による保護者への学習機会や相談対応の取組を推進している。また、保育所に預ける子どもの低年齢化、長時間化に伴い、保護者の養育力の向上につながる支援が求められ、保育所保育指針では、保護者支援を重要な役割として位置づけている。

OECD（2012）は、保育の質を高める上での重要な政策課題の1つとして、「家族や地域の参画」を挙げている。日本では、親は保育サービスの利用者、支援の対象とみなされ、よって保育の質は保育者によって決まると考えられる傾向があるが、OECD は親をパートナーと位置づけることで、親の力を保育の質の改善に約立てる可能性があることを指摘している。

では、そのような参画はどのように実現可能なのだろうか。全米乳幼児教育協会では、親をパートナーと位置づけ、家族が参画する保育の実現を目指すテキストを作成している（KEYSER 2017）。パートナーシップとは、同等の関係であると同時に、全く同じ役割を担うのではない、子どもの成長、学習、発達に相補的だが異なる貢献をすることが理想としている。パートナーシップでは、相手方の視点を理解し、双方向コミュニケーションを行い、重要な決定について相談し、意

見の相違を尊重して作業することとしている。相違を認め合いながらの作業が、関係の信頼を高め、新しい発見の可能性を広げることに繋がるという。さらに、そのような関係性構築のために、テクノロジーの重要な役割について言及しており、双方向コミュニケーション、意思決定のためのデータの収集と共有、コミュニケーションスタイルの多様化を可能にするツール、およびサポートネットワークを構築するため多くのアクセス可能な手段を提供するとしている。

2. 本研究の目的

本研究では、園と保護者が連携し、パートナーシップの関係性を構築するためのポートフォリオ（図1）を開発することを念頭に、設計要件を導くための予備調査を行うことを目的とする。具体的には、「iアルバム」システムを導入している幼稚園を対象に予備調査を行う。「iアルバム」は2000年に3クラスで試行、2001年から全クラスで導入された写真を共有するシステムで、「子どもに関する情報の共有」や「子ども像の共有」などの重要なやり取りが行われている。本園でシステムを利用している教諭と保護者の両側からインタビューを行うことで、パートナーシップに寄与する点と課題を明らかにすることにより、園と保護者のパートナーシップ構築のためのポートフォリオ開発要件を導き出すこととする。

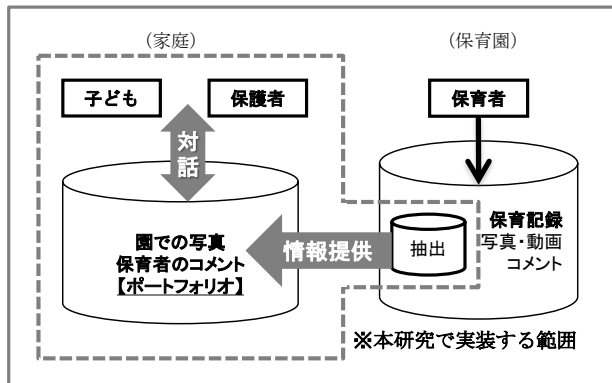


図1：子どもの学びを共有する家庭と園との連携の全体像

3. 予備調査 1

20017年8月に、教員歴から新人・中堅・ベテランの3名幼稚園教諭を抽出し、半構造化インタビューを行った。発話データから、「記録する行為から先生のリフレクションへ」、「保護者への連絡から保護者との密なコミュニケーションへ」と繋がる様子が伺えた。教員歴による差も見られ、新任教員には過去の蓄積がカリキュラム実践への予習教材となること、中堅教員にとっては後輩への指導のツールとなっていること、ベテラン教員にとっては、iアルバムを通して保護者との関係性を構築している園全体の特徴についての言及があった。共通の課題として、保護者へ「何を伝えるか」が重要と感じており、伝達文章の産出へ困難を感じているという点が挙げられていた。

4. 予備調査 2

日々、育児と仕事の両立で忙しい保護者にとって、保育園であれば連絡帳のやり取り、幼稚園であれば園業務への参加が負担となっているという問題もある。しかし、共に育てるパートナーとして、子どもの発達や教育に対して、保護者が視点を獲得することは、子どものその後の学業的成功と社会情緒的発展に強く関わっているという (KEYSER 2017)。そこで、iアルバムから提供される情報からどのような影響があるのか、保護者にとって何がハードルとなっているのかを調査するために、年少・年中・年長の保護者を対象に半構造化インタビューを行う。

5. 考察と今後の課題

保育者と保護者がお互い尊敬し合うという関係性は、子どもの対人関係の基盤モデルになり、学びにとって重要な情動的な環境となるという。

そのような関係性構築のために、子どもの成長記録を蓄積でき、保育者と保護者が非同期でつながることができるネットワークを介したポートフォリオ共有には、連携の可能性があることが分かった。いっぽうで、パートナーシップの関係性を築くためには、次の課題があると考えられる。

保育者側からは、子どもの現段階で抱える課題に対し、教育の専門家として発達段階や教授方法、パースペクティブで看取る視点を提供するところまでには至っていない。一方保護者側は、園での保育をヒントに子どもの苦手なことを家庭でも継続して克服するような事例は見られたものの、家庭における育児スタイル、教育・学習・規律に対する信念、子どもを取り巻く重要な人々との関係、家庭における子どもの気質・特徴・癖などが、保育者の保育実践における判断のための貴重な情報になることを意識していない。

上記の課題に対しては、子どもの成長を読み取ることのできるアセスメント項目を e ポートフォリオの機能で提供し、保護者自身が子どもの発達段階について意識することを促すことが有効であると考えられる。保育者が項目を提供することで、文章では伝えきれない全体像を保護者に認識してもらおう効果があると考えられる。さらに、提供された写真を用いて親子が対話しながら Digital Storytelling を行い、保育の場の意味生成の活動を行える機能を組み込むことでポジティブな視点を獲得するのに有効であると考えられる。

今後は、それらの機能をさらに検討し、パートナーシップ構築につながる園と保護者の連携システムを開発するとともに、その効果を検証していく予定である。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP17K01155 の助成を受けたものです。

参考文献

- KEYSER, J. (2017) From Parents to Partners: Building a Family-Centered Early Childhood Program. Redleaf Press.
- 松河秀哉, 今井亜湖 (2002) インターネットを用いた幼稚園と家庭の連携システムの開発と評価. 日本教育工学雑誌 26(1), pp.45-53.
- OECD (2012) Starting Strong III : A Quality Toolbox for Early Childhood Education and Care.